


安全データシート

改訂日: 2020年8月17日

<p>1. 化学品及び会社情報 化学品の名称(製品名) 会社名 住所 電話番号</p>	<p>水素化リチウムアルミニウム 米山薬品工業株式会社 大阪市中央区道修町2丁目3番11号 (06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島) CC0079</p>
<p>整理番号</p>	
<p>2. 危険有害性の要約 GHS分類 物理化学的危険性 健康に対する有害性</p>	<p>水反応可燃性化学品: 区分1 急性毒性(経口): 区分3 皮膚腐食性/刺激性: 区分1A</p>
<p>GHSラベル要素 絵表示又はシンボル</p>	
<p>注意喚起語 危険有害性情報</p>	<p>危険 水に触れると自然発火する恐れのある可燃性又は引火性ガスを発生 飲み込むと有毒 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷</p>
<p>注意書き</p>	<p>【安全対策】 湿気を遮断し、不活性ガス下で取り扱うこと。 容器を密閉しておくこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手などをよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。</p> <p>【応急措置】 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 固着していない粒子を皮膚から払いのけ、冷たい水に浸すこと/湿った包帯で覆うこと。 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。 火災の場合、消火するために適切な消火剤を使用すること。</p> <p>【保管】 乾燥した場所、又は密閉容器に保管すること。 施錠して保管すること。</p> <p>【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
<p>3. 組成、成分情報 化学物質・混合物の区別 化学名又は一般名 化学式 化学物質を特定できる一般的な番号 濃度又は濃度範囲(含有率) 官報公示整理番号(化審法/安衛法)</p>	<p>化学品 水素化リチウムアルミニウム LiAlH_4 CAS RN: 16853-85-3 94%以上 (1)-16</p>
<p>4. 応急措置 吸入した場合 皮膚に付着した場合</p>	<p>被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 汚れた衣類や靴等を脱ぎ、製品をできるだけ払い落とし、多量の水で洗い流す。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。</p>

眼に入った場合 飲み込んだ場合	速やかに清浄な水で最低15分間の洗浄を行い、医師の手当を受ける。 水でよく口の中を洗浄する。水または牛乳を飲ませる。被災者に意識のない場合は口から何も与えてはならない。無理に吐かせてはならない。直ちに医師の処置を受ける。
5. 火災時の措置 適切な消火剤 使ってはならない消火剤 火災時の措置に関する特有の危険有害性	食塩、乾燥砂、乾燥した粉末状の石灰石等を使用する。 水、炭酸ガス、ハロンは不可。 注水厳禁。 水を使用すると水素ガスを発生し、爆発又は火災が拡大する危険がある。 燃焼の際、刺激性もしくは有害なガスを発生する。 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 火災時に有害ガスを発生する。消火の際には煙を吸い込まないよう適切な保護具を着用する。 容器を出来るだけ安全な場所に移動させる。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)を着用する。
特有の消火方法	
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 関係者以外の立入りを禁止する。 河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。 飛散したものを掃き集めて密閉できる乾燥した鉄製空容器に回収する。 パラフィンオイルのような高沸点の不活性溶媒で覆う。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材 二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い 技術的対策(局所排気、全体排気) 安全取扱い注意事項 接触回避 衛生対策 保管 安全な保管条件 安全な容器包装材料	水、湿気に触れると水素を発生し、発火・爆発の危険があるので十分に注意する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な扱いをしない。 粉塵又はミストの皮膚接触あるいは吸入を避ける。 取り扱い後はよく手を洗うこと。 気密容器に入れ、通風換気の良い乾燥した場所に保管する。静電気の発生を防止する。 ガラス
8. 暴露防止及び保護措置 許容濃度(出典) 管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH 設備対策 保護具 呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具 特別な注意事項	未設定 未設定 未設定 取扱いについては、できるだけ密閉化を行うか、局所排気装置を使用する。作業場近くに手洗等の設備を設ける。 防塵マスク又は簡易防塵マスクを着用する。 ゴム手袋を着用する。 ゴーグルを着用する。 長袖の作業着を着用する。
9. 物理的及び化学的性質 物理状態 色 臭い 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲 可燃性 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 引火点 自然発火温度 分解温度 pH 動粘性率(粘度) 溶解度	粉末 白色又は灰色 無臭 125°C(分解) 該当情報なし。 可燃性固体 該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。 125°C(分解) 水溶液は強アルカリ性 該当情報なし。 30g/100g(エーテル)

n-オクタノール/水分配係数		該当情報なし。
蒸気圧		該当情報なし。
密度及び/又は相対密度		0.92 (20°C)
相対ガス密度		該当情報なし。
蒸発速度		該当情報なし。
10. 安定性及び反応性		
反応性		通常の取り扱いに於て安定。
化学的安定性		室温、乾燥空気中では安定である。 湿った空気中では分解する。 摩擦により発火することがある。
危険有害反応可能性		水、アルコールと反応し水素を発生する。
避けるべき条件		水、アルコールとの接触、湿気、直射日光及び高温、静電気、摩擦、裸火その他の着火源。
混触危険物質		水、酢酸エチル、アセトニトリル、等
危険有害な分解生成物		水素、水素化リチウム、酸化リチウム
11. 有害性情報		
急性毒性	経口:	マウス LD ₅₀ : 85mg/kg (区分3)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		水と反応して水素化物を形成する為、腐食性が高いと考えられる。刺激を受ける可能性が大きい。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		刺激を受ける可能性が大きい。(分類できない)
呼吸器感作性又は皮膚感作性		該当情報なし。(分類できない)
生殖細胞変異原性		該当情報なし。(分類できない)
発がん性		該当情報なし。(分類できない)
生殖毒性		該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回暴露)		該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(反復暴露)		該当情報なし。(分類できない)
誤えん有害性		該当情報なし。(分類できない)
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期: (急性)	該当情報なし。
	長期: (慢性)	該当情報なし。
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壤中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国連番号		1410
品名(国連輸送名)		水素化リチウムアルミニウム
国連分類		クラス4.3(容器等級 I であり水反応可燃性化学品は区分1に相当する)
容器等級		I
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。 消防法等の規制に従う。
国内規制がある場合の規制情報		消防法の規定に従う。
陸上輸送		船舶安全法の規定に従う。
海上輸送		航空法の規定に従う。
航空輸送		
応急措置指針番号		138
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		施行令第18条の2[名称等を通知すべき有害物](政令番号37: アルミニウム水溶性塩)
消防法		危険物第3類第2種自然発火性物質及び禁水性物質(金属の水素化物)
16. その他の情報		
参考文献		化学大辞典(共立出版社)

The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data ed.2
GHSの挑戦(化学工業日報社)
GESTIS Substance Database

その他

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。